



2021年12月20日

日本鉄道労働組合連合会

第78回JR連合国会議員懇談会

新体制を確認、伴野豊衆議院議員が副会長に



J R 連合は 12 月 14 日、第 49 回衆議院議員総選挙後初となる第 78 回国会議員懇談会を開催した。会議には、榛葉賀津也会長（参・静岡、国民民主党・幹事長）をはじめとする国会議員懇談会の所属議員 6 人および元副会長である伴野豊衆議院議員が出席したほか、J R 連合の各単組代表者も出席した。同懇談会所属議員は、広田一前衆議院議員が先の総選挙で惜敗したことで 1 人減の総勢 7 人の体制となっていたが、J R 東海出身

の伴野衆議院議員（衆・東海比例）が 4 年ぶりに国政の場に復帰したことから、同議員をあらためて副会長に迎えることを確認し、8 人体制で今後の取り組みに臨むこととした。

冒頭、榛葉会長は、「10 月の選挙では、J R 連合の仲間の皆様に大変助けられた。感謝申し上げたい」と先の総選挙に対する感謝の言葉を述べ、併せて「J R 連合の国会議員懇談会は、副会長の泉健太衆議院議員が立憲民主党の代表、小川淳也事務局長が同党政調会長に就任するなど重厚な布陣となっている。J R 産業はこの間の経営悪化により、地方路線の関係含め、問題が山積しており、息の長い支援が必要である。この体制でしっかりと政策実現に向けて取り組んでいく」と力強く挨拶した。続いて、J R 連合荻山市朗会長が挨拶し、「10 月以降、鉄道利用は回復基調にはあり、12 月も週末などはかなりお客様が戻っているとも聞いている。しかしながら J R 各社の経営体力は痛んでおり、回復には長期戦で臨まねばならない。この経営悪化により、内部補助で維持していた地方路線の問題も待ったなしの状況に陥っている」とあらためて強い危機感を共有した。



「J R 地方路線のあり方に関する政策提言」（案）のとりまとめを確認

協議事項では、「J R 産業が危機を乗り越え、持続可能な地域公共交通を構築するための支援措置を求める国土交通大臣要請」を実施するとともに、榛葉会長と荻山会長が挨拶でも述べた通り、採算路線で不採算路線を維持するというこれまでの地方路線維持のあり方が崩れているという問題意識から、「J R 地方路線のあり方に関する政策提言」をとりまとめていくことを確認した。